

し、形勢に依つて再起せん下心ありし朝日新聞に於て全敗したるを觀て遂に泣き寝入りとなれり。

正進會の再惨敗

やまと新聞社の同答も十三日に與へられ、營業者側代表者の態度の問題より意外の紛糾を見るに到りたるも、各社既に惨敗したる後のこととて、到底勝算あらずと觀て取りたれば十五日附を以て正進會は各新聞社に於ける爭議の経過を略述し、且つ他は更に憤起すべき旨誓ひたる悲痛なる報告的宣言を發したり。

宣言

去年の夏、東京市の新聞紙をして五日間發行を停止するの餘儀なきに到らしめた、我が新聞工組合正進會の前身革進會の活動に就いては、諸君は猶其の記憶に鮮かな事であらう。

吾々は惨敗した。一週日に近い休刊と云ふ未曾有の痛快事を僅かの記念として。吾々は一時降伏した。吾々の首要要求である八時間二部制の『近き將來に於ける實現』公約を、僅かの條件として。

しかし、素より吾々は、彼等資本家の謂はゆる公約を重んずるものでない。吾々の頼むところはたゞ吾々自身の力だ。爾來吾々は一たび瓦解した革進會を更に正進會の釜の下に復活せしめ、全市新聞工の約半数以上を糾合して、専念吾々の團結力の増進に努めた。惨敗一週年が来た。彼等資本家は、其の『時機を見ての近き將來』と云ふ公約に就いては、果して殆んど全く忘れて了つてゐるやうだ。八月一日、吾々は惨敗一週紀念會を開いた。そして其の席上滿場一致の下に、一般労働者に訴へて吾々の再舉を告げると共に其の同情と後援となを乞ふの宣言書を發し、同時に又、資本家等に迫つて公約を實行するの建白書を送つた。資本家等は何等の回答をも與へない。彼等は全く吾々を無視したのだ。

十月二十日、報知新聞社の同志は單獨に、五日間の回答期限を附して、八時間二部制の要求を提出した。そして其の回答當日新聞社の同答に先だつて其の手先きの某職工をして同志に喧嘩を賣らしめ、同志もそれに應じて、遂に社内の活字盤全部をひっくり返すの活動を演じた。新聞社は周章狼狽、直ちに警官を呼んで同志九名を拘引せしめ、猶工場の嚴重な警戒に至らしめた。斯くして報知社は自然の罷工となつた。

新聞社側は急遽新聞聯盟協會の臨時協會を開いた。そして、前年の例によつて、極力我が正進會を撲滅する事に議決した。そして猶協會は新聞工總同盟罷工の際には、正進會員を一人も含まない東京日々新聞社によつて、各社の新聞紙を印刷すると云ふ内相談までもした。

これを聞いた日々社の職工等は、労働者相互連帯の感情から、十月八日、八時間二部制を實施するの即時回答を求め、新聞社側の断乎たる拒絕に遭ふて、翌日文選工全部退場した。

十日、讀賣新聞社の同志も、同じく八時間二部制を要求して斥けられ、植字工、文選工全部退場した。十三日、やまと新聞社の植字工、文選工、印刷工全部及び東京朝日新聞社の文選工全部も亦、同様にして退場した。然るに、噫、前年とは其の戦略を異にして今回の此の再舉も、今や又、再び惨敗の悲況に陥らんとしてゐる。

新聞社は、前年吾々が喝破した如く、純然たる資本家である。しかも、自ら社會の木鐸と稱して、常に労働問題を高唱し、資本家の横暴と悪辣とを絶叫しつゝ、實は其の最も横暴なる、最も悪辣なる資本家である。

彼等は、事あれば直ちに、平素は互に相嫉視して惡辣極まる競争に従ひつゝある同業者等と、堅く結束する。そして、其の社會問題上の多少の知識——噫、恐るべき知識よ——を利用して、極力労働者の偽瞞し、誘惑し、高壓する。

彼等は、何よりも先づ、自覺労働者の解雇に努めた。報知は三十八名、日々、讀賣は共に十二名、朝日は三十四名、事を擧ぐると共に直ちに餓首されて黒表を廻付された。同時に彼等は、官憲の力を借りて、三十餘名を檢束せしめ、同志の主なるものに總て尾行調査を附かしめ、猶數十名の警官をして各社の工場の保護警衛に當らしめた、平素、労働の唯一眞實の味方と稱しつゝ、あつた東京毎日新聞の如きも、職工の要求提出に會ふや、直ちに重なる職工二名を解雇した。

吾々にはもう殆んど手の出しようがない。斯くして吾々は、遂に一日の新聞をも休刊せしめる事が出來ず僅かに萬朝報社の八時間二部制の即時實行と時事新聞社の來年一月を期しての實行契約とを得たゞけて、一兩日中に各社の此の罷工を中止するの已むを得ざるに到らんとしてゐる。